

音楽と私

宇都宮シルバーアンサンブル 山口ひろ子

十数年前、教員を退職しテレビを見ていた私は、オウム事件被害者支援をしていた坂本弁護士が殺害されたショッキングなニュースと、名前がバイオリンの和名「提琴」にちなんでいる事、また「タイスの瞑想曲」が、好きな曲であった事を知りました。

私は高校生からバイオリンを弾いていましたが、「タイスの瞑想曲」は弾いた事はありませんでした。当時、子供が旭中合唱部員で保護者の中に元ピアノ講師のお母様がいて、「一緒に弾きましょう」と、ピアノパートナーを引き受けていただきました。



その後ボランティアで、近くの病院や市立保育園等で演奏する機会に恵まれました。

数年後、ピアノの方が御主人の転勤で宇都宮を去る事になり、演奏依頼は来るので、ピアノを弾ける方を探して宇都宮シルバーアンサンブルに入団しました。当時ピアノの雨宮さん、鈴木先生には、ボランティア演奏に付き合っただき、大変お世話になりました。

現在は、ピアノパートナーの方との出会いがあり、月2回位のペースでボランティア演奏をしています。また、他の合奏団の応援を依頼される事もあり、本番が一月に5回という事もあります。

宇都宮シルバーアンサンブルでは、コンサートマスターとして、主にボウイングで決め（弓つけ）の仕事をしています。弓つけは、奏者によって習ってきた事が違い、プロの方でも人によって違います。その曲の音楽性を尊重し、弾きやすく、呼吸に合ったボウイングにしたいと考えています。

なぜ楽団のコンサートマスターがバイオリン奏者なのかと疑問に思っている方もいらっしゃると思います。一番前で演奏をリードする事も、もちろん重要ですが、この弓つけが音楽に大変重要な役割を果たしている事実があるからです。うまく弓つけをす

るには、多くの曲を弾いた経験がある事が重要ですし、センスも問われると思います。N響等、主要なオーケストラでも、客演指揮者が、コンサートマスターだけ、自国から連れて来る事があり、指揮者の方が、自分の目指す音楽のために妥協しないという熱意を感じます。

私の人生を振り返ってみると、常に音楽が身近にありました。祖母は琴を弾いていました。父はあらゆるジャンルのレコードを持っていて、よく聞いていました。母は私にバレエとピアノを習わせました。

しかし、自分からバイオリンを弾けるようになりたいと思ったのは、中学生の時レコードで、ジノ・フランチェスカッティの演奏を聞いて、大変衝撃を受けたからです。バイオリンの音色のすばらしさ、表現力の無限大さに、すっかり魅了されてしまいました。

高校生の時は、弦楽合奏団員、大学生の時は、オーケストラ団員として忙しい毎日を送りました。教員在職中も、文化祭等で音楽の先生と「ロマンスへ長調」や「アベ・マリア」等を弾いてきました。

教員退職後は、もうバイオリンを人前で弾く事もないだろうと思っていましたが、いくつもの出会いがあり、是非聞きたいと言って下さる方もいるので、外部での演奏も300回になろうとしています。

今まで、私を指導して下さいた恩師の先生方、ピアノパートナーの方々、そして、一緒にハーモニーを作っているアンサンブルの方々に感謝いたしたいと思います。

今後も体調に気を付けて、より良い演奏を目指していきたいと思っています。